

第 1 回～第 2 回審議会での意見(要旨)について

※緑字：第 2 回審議会での意見

| 項 目 | 要 旨 | 基本構想（素案）等の関連箇所 |
|---|--|---|
| 1 10年先さらにその先を見据え、考え、整理しておくべきこと（過去の延長線上ではない環境変化への対応） | <p>(1) 想像される変化</p> <p>① 政治、経済、社会の不安定な状況の継続、産業構造の転換</p> <p>ア 市民や消費者などの意識変化により、まちづくりやビジネスに大きな変化が出てくるのではないか イ 厳しい経済情勢においては、今、鹿児島市にあるものを見つめ直すことが大切ではないか ウ 市民意識調査では、「雇用環境の確保」を重要と考える市民の割合が高くなっている エ 時代の潮流に「景気の低迷」を加えてはどうか</p> <p>② アジア諸国における日本の地位低下</p> <p>ア 経済的にはアジア諸国の中で沈没が進んでいくのではないか</p> <p>③ 温暖化被害の顕在化</p> <p>ア 今後、鹿児島にもこれまでの想定を超えた被害が出てくるのではないか</p> <p>④ 少子高齢化や人口減少など</p> <p>ア 「行政、地域、市民、ボランティア」、「高齢者、子ども」など、これからはみんなが一緒になってまちづくりを進めていく時代 イ 元気な高齢者の活躍の場が増える ウ 今の子どもたちが、将来、その先の未来をきちんと考えていけるような教育が必要 エ 家族の構成、あり方の変化（→「大家族」への復帰も必要なのでは）</p> <p>⑤ まちづくりの理念の変化</p> <p>ア 「現代世代と将来世代」、「私権と公益」、「環境と経済」など、利益相反しがちなものの関係性の変化 イ 「こうあるべき」を考える→「こうなるとはいけない」を考える ウ 市役所の役割は、高度経済成長時代の「予算の均等分配」→財政制約の中での「選択と判断による予算分配」に変わっている エ 市役所が自分たちだけの判断で物事を見ていける時代は終わり、これからはそこをだれがカバーしていくのかという時代</p> | <p>3 総合計画策定の前提</p> <p>(1) 時代の潮流 (2) 本市の特性</p> <p>4 基本構想</p> <p>(1) 都市像 (2) 基本目標 (3) 戦略テーマ (戦略的・重点的・横断的に取り組むべきテーマ)</p> |
| (2) 変化を踏まえた主体的なビジョンの必要性 | <p>① 鹿児島市民として主体的な努力をしていく方向性（ビジョン）を考える（「都市像」）</p> <p>ア 価値観の変化など、今はそれほど大きくないが、今後影響が増すであろうことなどについて考えてみる必要がある イ 「市民がどういう意志を持って市役所とともにどういう負担をしながら自分たちの目標を持っていくのか」といった“目に見えないもの”がこれからの「都市像」のイメージではないか ウ 「都市像」の「人・まち・みどり～」について、「人とみどりとの関係」を見直し、協働をどのように行っていくのか、本気で取り組む覚悟、もっと言えば、このことを本気で議論していくのかということへの覚悟が必要</p> <p>② これからは「選択」が重要</p> <p>ア 想像される変化を見据え、掲げたものを同時には達成できないことを前提に、鹿児島市民としてどういう尺度で優先順位を決めていくのかという、選択を行う際の価値基準を、市民の覚悟としてつくっていくことが必要 (ただしオールオアナッシングではなく) イ 市民が望むこと全てを実現できない場面においては、市役所の説明責任として「その代わりこういうことをしていく」という部分をメッセージとして示すことが必要 ウ 市役所ができることはここまでであり、市民みんなと一緒にこういふ社会を目指そう」ということを基本構想で示し、それを意識して基本計画、実施計画にブレイクダウンする必要がある</p> | <p>4 基本構想</p> <p>(1) 都市像 (2) 基本目標 (3) 戦略テーマ (戦略的・重点的・横断的に取り組むべきテーマ)</p> |

| 項 目 | | 要 旨 | 基本構想（素案）等の関連箇所及び検討の方向 |
|---|-----------------------------|---|--|
| | | <p>エ 鹿児島市民として「豊かさ」をどこに求めるか（何を一番大事にするか）を考えることが必要</p> <p>オ 10年後、鹿児島市としてはこれを目指す、という徹底して取り組むものを1つ掲げることでベクトルがバラバラになるのを避けられるのではないかと思う。</p> <p>カ 「（過去の反省に立ち）こういうことは鹿児島市として絶対にしない事」と「必ずやりたい事」、この2つが中心となる（その他のことは「できればやります」という程度ではないのか）</p> | |
| (3) | 長期的な視点の必要性 | <p>① 長期的視点に立った方向性</p> <p>ア 毎年ベースでは出てこないものこそ、10年の総合計画で掲げていく意味があるものであり、そういったものを峻別する必要がある</p> <p>イ 「目標」については、環境で言えば、国際的には2050年（長期）、2020年（短期）という区切りがある。それをどう捉えるか、2030年、2040年、2050年を見据える中での2020年として捉え考えるのか</p> <p>ウ 50年後を見据えて、何が鹿児島にとって重要かということに気付き、それを目標として掲げて今から取り組むことによって変わってくるものである</p> <p>エ フランスの街並みの美しさは、高さの制限や古い建物を大切にしている部分からきており、（長期的な視点からの取組となるであろうが）景観や街並みというのは重要な要素である</p> | <p>4 基本構想</p> <p>(1) 都市像</p> <p>(2) 基本目標</p> <p>(3) 戦略テーマ</p> <p>（戦略的・重点的・横断的に取り組むべきテーマ）</p> |
| 2 多くの市民の理解、参画、協働につながる市民レベルでの分かりやすさ | | | |
| (1) | 市民レベルでの分かりやすさ | <p>① 「詳しく」ではなく「分かりやすく」</p> <p>ア 市民にまず知ってもらうためにはできるだけ詳しくというより、できるだけ分かりやすくということに視点を置くことが必要</p> | (第五次総合計画全体) |
| | 自分たちの生活や職場、地域との関わりを感じさせるものに | <p>② 分かりやすい総合計画の体系について</p> <p>ア 「都市像—基本目標—戦略テーマ」という「つくり」自体が分かりにくい（「こういうことをしたらこういうまちが実現します」ということを市民が分かるように、「自分たちは10年後どのようなまちに住んでいるのだろう」ということがイメージできるようなものが必要）</p> <p>イ 「基本構想」に関してこれまで出された意見等が「基本計画」や「実施計画」にどのように反映されていくのかを踏まえながら議論する必要がある</p> <p>ウ 「都市像」は理念であるが、どういうまちをつかっていくかという一番大事なところをまず考えていくことが大切（「都市像」の核となる視点や基本目標との関連を含めて）</p> <p>エ 「都市像」は市民みんなのビジョンであり、その中の、住む人と来る人にとっての「豊かさ」を、環境や産業振興、あるいは福祉や教育など具体化したものが6つの「基本目標」であり、それを実現するために「基本計画」と「実施計画」があるものと認識している</p> <p>オ 策定過程としては、「ビジョン」から検討に入り、そのビジョンに示す範囲での具体の基本計画、実施計画、そして単年度の予算となるものである</p> <p>カ 審議会では基本計画を含め基本構想について議論するが、実施計画及び予算は行政で行っていくものとなる</p> | <p>1 総合計画の体系図</p> <p>4 基本構想</p> <p>(1) 都市像</p> <p>(2) 基本目標</p> <p>(3) 戦略テーマ</p> <p>（戦略的・重点的・横断的に取り組むべきテーマ）</p> <p>※資料8・・・P2～P7</p> |
| | | <p>③ 10年間の強調ポイントの明示</p> <p>ア きれいにまとまり過ぎて、今後の10年間で何を強調したいのかが分かりにくい</p> <p>イ 財政制約も踏まえながら優先順位を付し、特に取り組む部分を分かりやすく示すことが必要</p> | |

| 項 目 | 要 旨 | 基本構想（素案）等の関連箇所及び検討の方向 |
|-----|---|--|
| | <p>④ 「基本目標」のあり方、内容</p> <p>ア 6つの基本目標について、この中での優先順位はないのか（「信頼・協働政策」が、今回は基本目標の1つとなったという説明があったが、ここが今回のメインテーマとなるのか。ここの位置づけは再度検討したほうがよい）</p> <p>イ 6つの基本目標のうち「信頼・協働政策」は、並列で表現されているが、その他の基本目標の基盤となるものだと理解してよいか（市民と連携したまちづくりを進めるということをここで打ち出しているということによいか）</p> <p>ウ 「信頼・協働政策」は、市民が都市間競争の評価者であり同時にまちづくりの当事者でもあることを示し、そういう仕掛けをもっとつくっていくことが重要という意味から、もっと強調してもよいのではないか</p> <p>エ 都市像の「みんなで創る」を受け、「信頼・協働政策」が、それ以外の5つの基本目標（都市像の「豊かさ」）を実現するための方法論としてあるとすると、6つ並列でもよいが、それよりは共通基盤と考えたほうが分かりやすいのではないか</p> <p>オ 6つの基本目標は、①一定の経済的な豊かさを実現する（観光を中心に取り組むなど）、②環境問題に取り組む（世界的水準を目指す）、③福祉や教育の取組を進める、という3つに分けられるのではないか</p> <p>カ 子どもをどのように育てていくかは、学校や親への支援など総合的に捉える必要があり、大きなキーワード（そういう意味から基本目標の中に「子ども」という文言を表出ししてもよいのではないか）</p> <p>キ 今まで当たり前と生きてきたことが本当にそうなのかというところから考えていくべき（例えば「教育」について、不登校児童が多い中では、必ずしも「学校教育」だけではないのではということなど）</p> <p>ク 人を育てる観点から、技術者を育成する専門教育を行う環境づくりも必要</p> <p>ケ 「にぎわい交流政策」に関し、鹿児島市の産業構造を踏まえ、どういう産業を伸ばし雇用の場をつくっていくのか（どのような現状で今後どうしていくのか）を示すべき</p> <p>コ 交通に関し、伊敷方面の市電廃止は、その当時の時代背景によるもので、今の時代でどうなのかということをもう一度考えてみてよよいのではないか</p> <p>⑤ 戦略テーマ、戦略プロジェクトの体系図での位置づけを検討</p> <p>ア 例えば、基本計画の最初の部分に位置付ける等</p> <p>イ 従来の部局の枠組みに基づき横並びで6つ掲げてある「基本目標」より、市民の生活実感レベルからは部局の枠組みではない「戦略テーマ」や「戦略プロジェクト」のほうが分かりやすいのでは（「基本目標」と「戦略テーマ」の関連を分かりやすく整理してはどうか）</p> <p>ウ 「つくり」の部分での分かりにくさの一つの要因となっていると思われる、「戦略テーマ」及び「戦略プロジェクト」の位置づけについて一定の整理をすべき</p> <p>⑥ 目標指標を分かりやすく（行政評価を含めて）</p> <p>ア イメージしやすい指標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1つの項目（基本施策）に対して目標数値は複数あったほうが、トータルとして達成されたかが分かりやすく示せるのではないか ・ これまでの10年における経年変化、同規模の都市との比較があるとイメージしやすいのではないか <p>イ 鹿児島らしい目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「教育・子育て」に関して、一般論の教育だけでなく、鹿児島ならではの教育を進めるということも含めて、市民の方々に分かってもらえるような目標を掲げていくべきではないか（国際社会の中でどうあるべきか、世界というものもバランスよく教えていくということを含めて） <p>ウ 全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「実施していることだけの評価」ではなく「実施していないことの評価」も行なうべき ・ 指標については、関連する市の個別計画で掲げた指標との整合を図るなど調整が必要 | <p>（基本計画：「目標指標」及び「役割分担」）</p> <p>（行政評価システム）</p> |

| 項 目 | | 要 旨 | 基本構想（素案）等の関連箇所及び検討の方向 |
|-----------------------------|------------------|---|---|
| (2) | 市民の参画・連携につながる仕組み | <p>① 市役所の対応セクションが分かるように</p> <p>ア 実施計画の中で、どの部署が担当しているのか、市民が市役所のどこに対応を求めたらよいか分かるようにすることが必要</p> <p>② 総合計画の推進体制の明示（あり方を含めて）</p> <p>ア 各関係団体との関連や、国や県の施策とのリンクが見えるようにすることが必要</p> <p>イ プラン策定後のチェック機能、市民を含めた体制を考えていくことが必要</p> <p>ウ（事後の評価が中心の行政評価とは別に、期中の評価となるような）市民が参画して、策定後の総合計画をウォッチしていく推進体制が必要（それが、6つ目の基本目標「信頼・協働政策」の一つの具体的な形となるものであろう）</p> | (基本計画、実施計画) |
| 3 アジアや日本の中の鹿児島市という視点 | | | |
| (1) | 対外的に発信する方向性 | <p>① 国内外の都市間競争を見据えた、対外的に発信する都市（「都市像」など）</p> <p>ア アジアを含めた都市間競争を見据え、都市は相当な意志を持ち、時代を先取りするまちづくりの方向性を打ち出す必要がある</p> <p>イ どの都市でも掲げる基本的な部分と、全く初めて鹿児島市がトライする部分とを区分すると、10年間で目指す特徴あるものや新しいものが出てくるのではないかと（「安心安全」と「時代の最先端に立つ」というのが大きな要素）</p> <p>ウ 市民目線からだけでなく、県から見た鹿児島市のあり方・役割、日本の中での役割、アジアの中で埋没しない都市の魅力を打ち出すことも、対外的に情報発信する都市像と言えるのではないかと</p> <p>エ 「都市像」を考える際のポイントは、「住むまちとして鹿児島市をどうするか」と「外部から見て鹿児島にどのようにあってほしいか」の2つではないかと</p> <p>オ 「都市像」については、訪れた人が鹿児島市に感じるもの、そこに住む市民も感じるものではないかと（スウェーデンの「高福祉と強い経済」、シンガポールの「環境と物流、多民族共生」などの「国家像」のイメージ）</p> <p>② 特色ある都市のイメージや方向性</p> <p>ア 「桜島がどこからでもきれいに見えるまちづくり」を進めれば、一歩足を踏み入れた時に「鹿児島は自然を大切にしているまち」という市民の意志が感じられるのではないかと</p> <p>イ みどりを中心に据え、街中に癒される、老人たちも憩える空間、例えば、「みどりの中に街がある」「小鳥のさえずる街」のようなものを目指してもよいのではないかと（県文化センターを無くし、中央公園を拡大して、市のセントラルパークとするなど）</p> <p>ウ 錦江湾という素晴らしい資源を活かしていくことも重要（今は身近に感じられない）</p> <p>エ 錦江湾や甲突川の水に直接触れる体験ができる場をつくるのが大切（このような経験が甲突川を守ろう、錦江湾を守ろうという声につながるとともに、鹿児島市民が何を大事にしようとしているのかが明らかに分かる）</p> <p>オ 前例が無いから駄目ではなく、前例となるようなもの、鹿児島市の特色となるものを掲げるべき（例えば動物と住める市営住宅、大家族で暮らせる市営住宅など）</p> <p>カ 「鹿児島らしさ」とは何かをイメージして、一つ一つの表現に「鹿児島らしさ」をもっと出していってもよいのではないかと</p> | <p>3 総合計画策定の前提</p> <p>(1) 時代の潮流</p> <p>(2) 本市の特性</p> <p>4 基本構想</p> <p>(1) 都市像</p> <p>(2) 基本目標</p> <p>(3) 戦略テーマ</p> <p>(戦略的・重点的・横断的に取り組むべきテーマ)</p> |
| 4 第四次総合計画の検証 | | | |
| (1) | 現計画の検証 | <p>① 現計画の検証を踏まえた、新たな計画の策定</p> <p>ア 現計画の達成度を評価し、それを前提として計画策定を行うことで、連続性が出てくる</p> <p>イ 市民生活指標については、第四次総合計画でまだ足りない部分等の評価も必要</p> | <p>(行政評価結果)</p> <p>(市民意識調査結果)</p> |